

## 30A-02

## 五苓散の血糖値への影響

仙台通信病院第2内科<sup>1)</sup>，東北大学第3内科<sup>2)</sup>

○我妻 恵<sup>1)</sup>，佐藤玄徳<sup>1)</sup>，湯村和博<sup>1)</sup>，豊田隆謙<sup>2)</sup>

【目的】五苓散は糖尿病が適応症として認められている。しかし，実際に五苓散を糖尿病に投与し，血糖値測定によりその効果が明らかにされた報告はこれまで極めて少なかった。著者等は，人の耐糖能に対する五苓散の作用を検討した。

【方法】これまでに五苓散の投与を受けておらず肝機能正常な男性で，耐糖能正常2例（症例1:31歳，症例2:32歳），糖尿病境界型2例（症例3:29歳，症例4:30歳），NIDDM 2例（症例5:46歳，症例6:70歳）を対象とした。各例について2週間以内に75g-OGTT,IRIと，ツムラ<sup>®</sup>五苓散2.5g服用30分後のGTTを実施しそれらの結果を比較した。IRIについては， $\Delta IRI / \Delta BS(30')$ にて比較した。

【結果】各例の証およびルーチンGTTと五苓散服用後の結果を（前，30分，60分，120分）の順に示す。症例1:実証，ルーチンGTT（106mg/dl,156mg/dl,128 mg/dl,118mg/dl），五苓散服用後（103, 144, 167, 152）。症例2:中間証，ルーチン値（99, 163, 97, 99），五苓散服用後（111, 117, 111, 132）。症例3:実証，ルーチン値（90, 157, 178, 129），五苓散服用後（96, 143, 172, 144）。症例4:虚証，ルーチン（99, 219, 230, 127），五苓散服用後（112, 166, 142, 109）。症例5:中間証，ルーチン値（145, 249, 277, 245），五苓散服用後（151, 269, 276, 206）。症例6:虚証，ルーチン値（353, 416, 434, 598），五苓散服用後（222, 343, 517, 412）。 $\Delta IRI / \Delta BS(30')$ は，症例4, 5, 6がルーチンGTTで0.2以下であり，耐糖能障害のある症例3～症例6で，五苓散服用後の値がルーチンGTTの値より減少した。

【考察】五苓散投与により，全例でルーチンGTTに於けるピーク血糖値の下降が認められ，しかも，証に注目すると実証例よりも虚証例で，より大きな下降が得られた。 $\Delta IRI / \Delta BS(30')$ では，耐糖能障害のある例で，五苓散投与により一定の減少傾向が認められた。この変動は，五苓散が耐糖能障害を有する症例に対し，インスリン感受性に係わりのある何らかの薬効を持っている可能性を示唆すると考えられる。

【結論】五苓散は，その投与により，75g-OGTTに於ける血糖値下降が得られる症例の有ることが示され，虚証例で影響がより大きかった。